

松江市立第一中学校（令和2・3年度）

研究主題 互いを認め合い、学び合いながら、主体的に行動する生徒の育成 ～人間関係づくり、集団づくりを通して～

I はじめに

1 主題設定の理由

本校は令和2年～3年度の2年間にわたり、島根県教育委員会人権・同和教育研究指定を受け、実践に取り組んできた。生徒は全体的には明るく落ち着いており、真面目に学習や行事に取り組む。また、部活動も盛んで、目標をもって活動する生徒が多い。

本校では平成25年度から、人間関係づくりに重点を置き、「人間関係プログラム」の取組を通して、個の育成に根ざした学級集団づくりと授業改善を進めてきた。しかし、現在もなお、自分の思いを相手に伝えたり、相手の気持ちに共感したりするコミュニケーション力や他者に積極的に関わろうとする意欲、互いの違いを認めて相手を尊重したり、ともに高まろうとしたりする姿勢などにおいて課題が見られる。

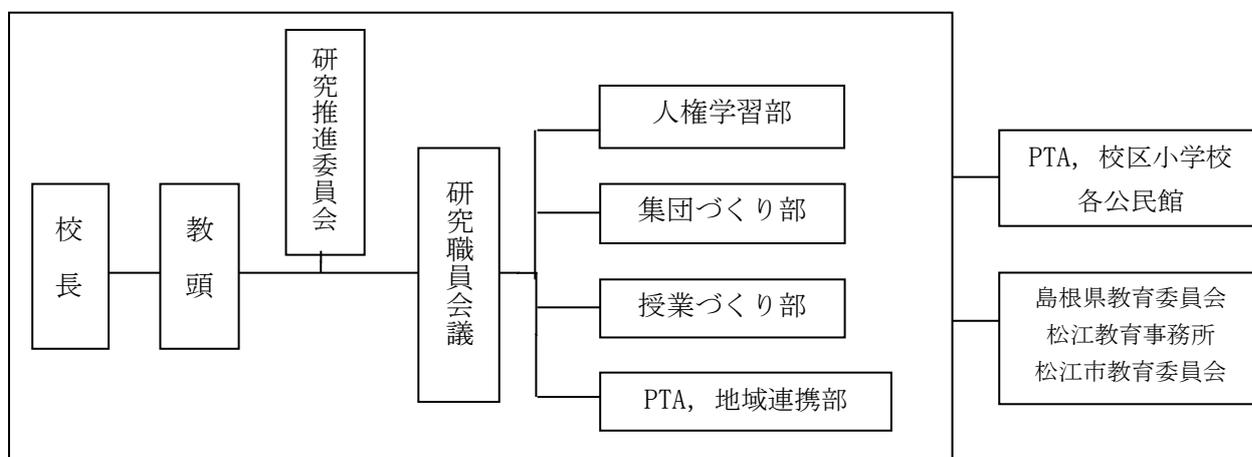
私たちは、これらの課題の改善を目指して、生徒一人一人の人権意識を高め、より良い人間関係を創り出し、主体的に物事に取り組む力を向上させる取組を行うこととした。

2 取組の内容

本研究を進めるにあたり、課題への取組を次の(1)～(3)のように「感じる力」づくり、「つながる力」づくり、「行動する力」づくりの3つに分類して推進し、主題に迫ろうと考えた。

- (1) 確かな知識を身につけ、人権感覚を磨いて、人権意識を高める取組—「感じる力」づくり
- (2) 互いに認め合い、学び合う人間関係づくり — 「つながる力」づくり
- (3) 主体的に行動する力を高める授業づくり — 「行動する力」づくり

また、取組を計画、実践していくために、「人権学習部」、「集団づくり部」、「授業づくり部」の3つの部会と、PTAや地域で活動をサポートしていく「PTA 地域連携部」を設置した。



1年目は、(1)の「感じる力」づくりを人権学習部が、(2)の「つながる力」づくりを集団づくり部が、(3)の「行動する力」づくりを授業づくり部が中心となって取組んだ。そして、2年目は、1年目の振り返りをもとに研究推進体制を見直し、人権学習部が中心となって、集団づくり部、授業づくり部と連携しながら研究を進めることとした。

II 取組の実際

1 人権学習に関わる取組

(1) 人権集会（R2年度実施）

各学級の課題をもとに、学年、学校全体でその課題を共有し、意見を交流させ、それを再び学

級へと持ち帰って行動目標を立てるという活動を行った。これまでは教師側から生徒に向けて課題を提示することが多く、子どもたちがその課題を自分事として考える場が少なかった。そのため、話し合いも表面的なものに陥りがちで、生徒一人一人が深く自己を見つめ直すものとはならないことが多かった。そこで、生徒自身が自分たちの学級の課題点を見つけ出すこと、また、異学年の考えや意見を聞くことによって自分たちの考えを振り返ったり、深めたりできるようになることをねらいとしてこの活動に取組んだ。自分たちの学級の課題を見つけ出すことを通して、それらの根底にある課題に目を向け、全校に共通している人権上の課題に気づくことができた。



感染症拡大防止の観点から全校集会の形をとることができなかったので、生徒の意見交流の場をどのように設けるかが課題であった。そこで、「異学年の意見交流」に重きをおき、全校集会に替えて各学年代表による話し合いをパネルディスカッションの形で行った。それに向けて、まず人権学級会を行い、各学級代表による学年代表者会を経て、学年代表パネリストによるパネルディスカッションを行った。このパネルディスカッションで、生徒たちは「授業中の私語」、「本音が言えない雰囲気」など、学級から出された課題について、その要因を掘り下げ、「私語する人に注意できないのはなぜか?」、「周囲に合わせてしまうのはなぜか?」などについて人権の観点から活発に議論した。そのパネルディスカッションの様子を録画して各学級で視聴し、それを受けて再度学級での話し合いの場をもち、各学級で行動目標等を作成した。

感染症拡大防止の観点から全校集会の形をとることができなかったので、生徒の意見交流の場をどのように設けるかが課題であった。そこで、「異学年の意見交流」に重きをおき、全校集会に替えて各学年代表による話し合いをパネルディスカッションの形で行った。それに向けて、まず人権学級会を行い、各学級代表による学年代表者会を経て、学年代表パネリストによるパネルディスカッションを行った。このパネルディスカッションで、生徒たちは「授業中の私語」、「本音が言えない雰囲気」など、学級から出された課題について、その要因を掘り下げ、「私語する人に注意できないのはなぜか?」、「周囲に合わせてしまうのはなぜか?」などについて人権の観点から活発に議論した。そのパネルディスカッションの様子を録画して各学級で視聴し、それを受けて再度学級での話し合いの場をもち、各学級で行動目標等を作成した。



感染症拡大防止の観点から全校集会の形をとることができなかったので、生徒の意見交流の場をどのように設けるかが課題であった。そこで、「異学年の意見交流」に重きをおき、全校集会に替えて各学年代表による話し合いをパネルディスカッションの形で行った。それに向けて、まず人権学級会を行い、各学級代表による学年代表者会を経て、学年代表パネリストによるパネルディスカッションを行った。このパネルディスカッションで、生徒たちは「授業中の私語」、「本音が言えない雰囲気」など、学級から出された課題について、その要因を掘り下げ、「私語する人に注意できないのはなぜか?」、「周囲に合わせてしまうのはなぜか?」などについて人権の観点から活発に議論した。そのパネルディスカッションの様子を録画して各学級で視聴し、それを受けて再度学級での話し合いの場をもち、各学級で行動目標等を作成した。

(2) 人権放送・標語作成 (R2年度～3年度実施)

人権意識を高めるための啓発活動として、月に一回の人権放送を実施した。生徒による放送とし、生徒会企画委員による感想の紹介やまとめを行った。感想を人権掲示板で紹介して生徒への意識啓発とした。どの学級も落ち着いた態度で朗読に聞き入り、人権について真剣に考える良い時間となった。また、12月には、聞いた内容をもとに人権標語を作成した。

私か相手の立場だったら、車いすの先生に対して同じことを思っていたのかもしれない。この人はこうだからあれが正しい、こういう人なんだと決めつけてしまうことが普段の生活であったと思います。でも、その決めつけは時に相手を傷つけてしまうことがあると思います。人は全員個性があり、同じ人なんかいないけれど、その個性で差別をしてはいけないと思いました。

確かに僕も「自分は差別してたり」と思っていたけど、ふり返ってみると差別はしてはいい、今回のお姉さんのような人を差別的な目で見てはならない、でもそれを自分だと考えたら嫌な気持ちになり、今回のカップルのことを絶対に許せないと、「人々の人間性」でみんな選んで、差別はするべきではないと思いました。

(3) 教職員研修 (R2年度～3年度実施)

- ① SNSによるいじめを取り扱った教職員研修と学活授業の実践 (講師・今度珠美先生)
- ② 生徒の自尊感情を育てる手だてについての研修 (講師・久我直人先生)
- ③ 支援が必要な生徒に共感的に接することができる生徒集団づくり、1人1人が大切にされる

学級づくりについての研修（講師・松久眞実先生）

（4）本校研究で育てたい3つの力に視点をおいた道徳授業の実践（R2年度～3年度実施）

全学年道徳の授業を公開し、外部講師による授業づくりの校内研修を実施した。本校研究との関連性、人権教育の視点から育てたい力の設定や生徒が自分事として捉えたり、多面的・多角的に考えを深めたりすることができる発問づくりについて研修した。「人権として」「人権についての理解」「人権を通しての教育」の視点から見た授業改善の視点についても指導を受けた。

（5）いじめを扱った道徳・特別活動の授業実践（R2年～3年実施）

本校では、人権学習の授業研究と実践を行い、毎年2学期に保護者に公開している。今年度は指定を受けた人権・同和教育研究の一環として次のア、イの授業を11月18日に、ウの授業を11月7日に行った。

ア 1年生・・・SNSとうまくつきあおう（特別活動）

イ 2年生・・・「本当の私」よりよく生きる喜び〔生命・崇高なもの〕（道徳）

ウ 3年生・・・いじめを解決するには？（特別活動）



ア 1年生授業



イ 2年生授業



ウ 3年生授業

第3学年 学級活動（2） 指導案

日 時 令和3年11月7日（日）

場 所 各 教 室

授業者 各 担 任

1 題 材 「いじめを解決するには？」

（ア 自他の個性の理解と尊重、より良い人間関係の形成）

2 題材について

いじめの問題は、現代社会が抱える喫緊の課題の一つである。テレビ等でも、命を奪うような凄惨ないじめ、虐待の報道が後を絶たない。文科省の調査によると、いじめは若年齢化しており、また、その態様は「冷やかし、からかい、悪口、脅し文句、嫌なことを言われる」が61.9%、「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり蹴られたりする」が21.4%と、一見悪ふざけと見分けがつかないものや、表に出づらいものが多い。

このことから、この問題を解決するためには、子どもたち同士が支え合い、声を掛け合っていじめを発見し、解決に努めることが重要であると考えられる。しかしながら、仕返しや自分がいじめられる立場になることを恐れ、解決のために動くことができない生徒、いじめる側といじめられる側だけの問題であ

り他人事だと捉える生徒、いじめられる側の努力への努力が足りないという誤った認識を持つ生徒が多く、なかなか根本的な解決にたどり着くことができない。

今回の学習で生徒たちは、いじめの構造を人物のイラストで捉え、解決のために誰がどうすべきかを、グループでの話し合いを通して深めていく。その過程で、いじめを解決するには、当事者ではなく、その周りにいる人たちが重要であることを見つけさせ、単なる傍観者とならず、どのような行動をとるべきかを考えさせたい。また、学級内での話し合い活動に加え、学級をまたいで生徒同士が考えをシェアする機会を作ることにより、様々な角度から深く考えさせたい。

3 評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解している。適切な意思決定を行い実践し続けていくために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	自己の生活や学習への適応及び自己の成長に関する課題を見いだしている。多様な意見をもとに自ら意思決定して実践している。	他者への尊敬と思いやりを深めてよりよい人間関係を形成しようとしている。他者と協働して自己の生活上の課題解決に向けて、見通しをもったり振り返ったりしながら、悩みや葛藤を乗り越え取り組もうとしている。自他の健康で安全な生活を構築しようとしている。

4 目指す生徒の姿

- ・単なる傍観者とならず、いじめ解決のためにすべきことを理解している。（知識・技能）
- ・話し合いを通してどんなことができるかを具体的に考え、意思決定をすることができる。

（思考・判断・表現）

5 研究との関連（「感じる力」、「つながる力」、「行動する力」）

○話し合いを通して他者の意見を聞き、意思決定に向けて考えを深める。（「つながる力」）

6 人権教育の視点で育てたい資質・能力

ク 自他の価値を尊重しようとする意欲や態度

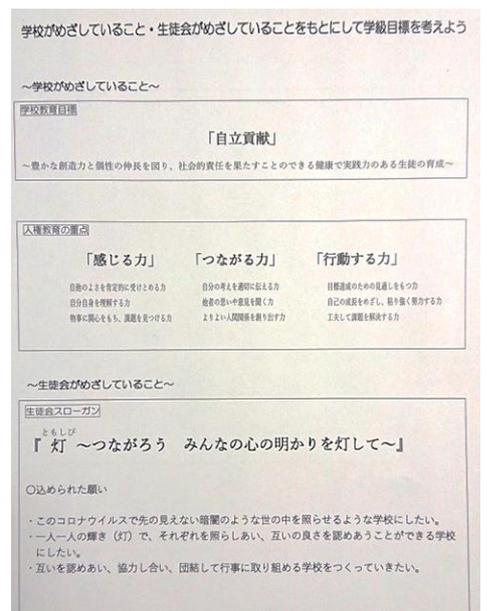
7 本時の展開

	主な学習活動	教師の働きかけと評価 （・働きかけ ○評価）
導入	0-1 絵を見てどのような状況か考える。 （ペアで話し合う） 0-2 本時の活動内容、めあてを聞く。	・BさんたちがAさんを困らせており（いじめている）、Cさんたちがそれを見ている。Dさんたちは何が起きているかわかっていないことを確認する。（見方の違い可） ・活動内容、めあての説明をする。
展開	思考1 気持ちを想像する （1）Aさん、Bさんたち、Cさんたち、Dさんたちの気持ちを想像してワークシートに記入する。 （2）グループになり書いた内容をシェアする。 （3）2～3班、代表者が出た意見を発表する。 思考2 改善方法を考える	・ここでワークシートを配付する。 ・なるべく詳しく想像するよう助言する。 ・あらかじめ進行と発表者、発表方法を決めておく。

<p>(1)この状況をよくするために、誰が何をすべきかをワークシートに記入する。</p> <p>(2)グループでシェアする。</p> <p>思考3 考えを深める</p> <p>(1)3(2)の内容について次のことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実現可能か ・実現することで新たな問題が起こらないか ・より良い方法はないのか <p>(2)発表者がグループで話し合った内容をまとめ、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの過程や経緯を説明する ・どうしたら一番よいか、結論はでなくてもよい。 <p>(3)教師からのアドバイスを聞く。</p> <p>思考4 意思を決定する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動カードに、自分はこれからどう行動していきたいかを記入する。 <p>5 振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級活動カードに振り返りを記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分とは違う意見は赤ペンなどでワークシートに記入させる。 ・Aが「やめて」と言う、Bがいじめをやめる、などの意見が出たときは、深く考えさせる。もしも自分がいじられている側だったら伝えられるかどうか、指名して答えさせてもよい。 → C、Dの立場がいじめ解決のカギを握っている、ということが理解できる方向に導く。 ・いじめは、当事者は声を挙げにくいこと、いじている側は相手の気持ちを理解できず、行動がエスカレートしがちであることなどを押さえ、CとDの立場の重要性を再度確認する。 <p>○いじめ解決のためにC、Dの立場としてすべきことを書いている。</p> <p>○話し合いにより思考を深め、実現可能で具体的な方法を書いている、</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(6) 学級目標決め・学級目標発表会 (R3年度実施)

生徒がクラスメートとともに目標に向かい、自らの進路を切り拓く努力ができる学級環境づくりの一環として、学級目標発表会を計画した。学級目標決めの学級会では、学校教育目標、研究の重点の3つの力、生徒会スローガンに沿いながらクラスとして何をどのように頑張っていくかを生徒同士が熱心に話し合った。学年ごとに実施した発表会では、制作したポスターを見せたりスクリーンに提示したりしながら、学級代表者が目標やそれに込められた思いなどを発表した。



(7) 人権掲示板の活用 (R2年度～3年度)



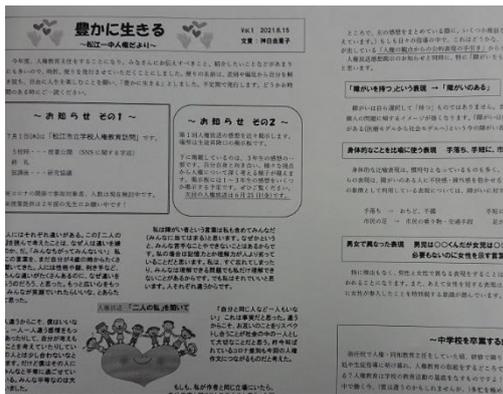
昇降口付近に掲示板を設置し、人権放送の感想や「聞くことに関するアンケート」の結果を掲示した。

(8) 教室掲示物の整理 (R3年度実施)

全ての生徒が学習活動により集中しやすい環境をつくるため、生徒の視界に入る教室前面の掲示物を全クラス共通で整理した。教室前面は校訓、時計、時程表、避難経路のみを掲示し、学級目標やその他の掲示物は教室横か後方の掲示板に掲示することとした。



(9) 人権だよりの発行 (R3年度発行)



人権学習部から人権だよりに「豊かに生きる」を発行した。これは、人権放送を聞いた生徒の感想を紹介する場として、また、教職員ミニ研修の場として作成したものである。話題を提供することによって、我々教職員一人一人が、自らの人権感覚や日ごろの言動を点検し直し、考えていくきっかけづくりとした。我々教職員が率先して人権意識を高めていくことが生徒に正しい人権意識を育むことに必要不可欠であると考えている。

2 授業づくりに関わる取組

(1) 生徒の主体的に行動する力を育む
授業づくりの研究 (R2年度～)

生徒の主体的・対話的で深い学び、多様な考え方に触れて自己の考えを深め広げる授業の実現をめざし、教員を教科により3つのグループに分けて、学期に1回、グループごとに授業研究を行った。千鳥の杜学園の授業参観シートをもとに、独自の「授業づくりシート」を作成し、日々の授業や授業研究の際に活用した。また、学期ごとに生徒、教員に振り返りアンケートを実施し、生徒と教員の取組の変化などを確認して今後の授業に生かした。アンケート結果の動向を見ると、「めあてと振り返り」の実践により、

別紙	
松江一中 授業づくりシート	
1 「感じる力」、「つながる力」、「行動する力」をつけるために、授業づくりで工夫した点 (1～2つ簡潔書きで記入し、括弧書きで力の力を明記する。) (例) 名前入りのマグネットを支持する意見に貼っていき、意見の視覚化を図った。(「感じる力」3)	
「感じる力」 1 自他のよさを感じる 「つながる力」 1 他者の意見を聞く 「行動する力」 1 目標達成のための見通しをもつ	2 自己を理解する 2 自分の意見を伝える 2 自分の成長を目指し、粘り強く取り組む 2 工夫して、課題を解決する
2 授業の見どころ (口に✓)	
<input type="checkbox"/> 1 生徒が、めあてをつかみ、見通しをもって取り組んでいたか。	(行動1)
<input type="checkbox"/> 2 生徒が、自分の言葉で学習を振り返って、何を学んだのかをつかんでいたか。	(行動1)
<input type="checkbox"/> 3 授業とれて(教材・題材・問題・工夫など)より、生徒に課題を高めたり、考えを深めたりしたか。	(感じる3)(行動2)
<input type="checkbox"/> 4 ペア、グループ、一斉等の様々な形態において、生徒一人ひとりが意欲的に活動していたか。(つながる3)	
<input type="checkbox"/> 5 生徒同士で学びを深めることができたか。	(感じる1)(つながる1～3)(行動3)
<input type="checkbox"/> 6 生徒が、工夫して自分の考えを表現したり、話し合いの結果を整理したりしていたか。	(感じる2)(つながる2)
<input type="checkbox"/> 7 その他()	

生徒が見通しをもって授業に取り組む姿が多くみられるようになったが、感染症対策により、ペアやグループなど多様な学習形態を取り入れることが難しく、その中でいかに多様な考えに触れて生徒自身の考えを深める授業を展開していくか、さらなる工夫の必要性が感じられる結果となった。

(2) 3つの力を育てるための学校行事・キャリアパスポートとの連携 (R2年度～)

学校行事の企画立案の際、育てたい「3つの力」をねらいに盛り込む。また、キャリアパスポートの目標も連携させて設定した。

3 集団づくりに係る取組

「聞く」ことに重点を置いた取組

生徒同士が互いに認め合い、学び合う人間関係を作るために、まずは、「聞く」姿勢に重点を置くべきであると考え、次のような取組を実施した。

(1) 「聞くことに関するアンケート」の実施 (R2年度実施)

アンケートは、「話し手に体を向けて聞いている」、「しゃべったり他のことをしたりしないで聞いている」、「うなずいたり、あいづちをうったりしながら聞いている」などの聞く時のマナー等を問う項目や「相手の意見を尊重しながら聞いている」、「自分の意見と比べながら聞いている」、「自分の考えや発表に生かせる部分がないか、考えながら聞いている」など主体的に聞く姿勢を問う項目で構成し、結果を掲示板に掲示するとともに、生徒会執行委員が分析を行い、次に挙げる「聞き方宣言」づくりの活動に活用した。

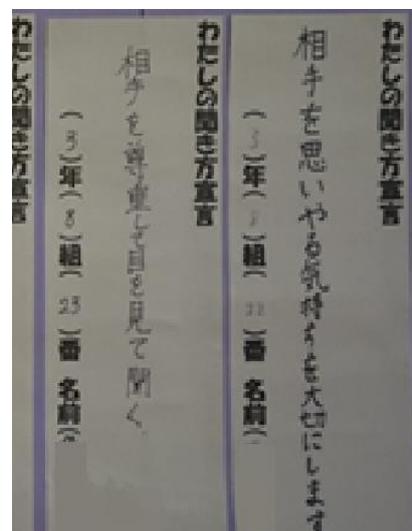
(2) 特別活動「わたしの聞き方宣言」をつくろう (R3年度実施)

生徒会執行委員がアンケートの分析を行った結果、聞くマナーに関しては大半の生徒が肯定的な回答をしているが、課題のある聞き方をしている生徒もいること、主体的な聞き方に関しては、自分の意見と比べながら聞いたり、自分の意見に生かさないか考えながら聞いたりする意識がさらに必要であることが分かった。

授業では、まず生徒会執行委員が、結果分析と、それをふまえて「わたしの聞き方宣言」を作る活動をする動画を各学級に提案した。次に、それを受けて各学級でさまざまな聞き方が示されているイラストを見て、それぞれの聞き方についてどんな印象を受けるかを話し合い、「望ましい聞き方をするためにはどのような気持ちが大切なのか」について考え、「わたしの聞き方宣言」作りにつなげた。



生徒会執行委員からの動画での提案の様子



学級活動（２）指導案

実施日 令和３年６月３日（木）３校時

1. 題材 「わたしの聞き方宣言」をつくろう

2. 題材設定の理由

(略)

3. 本時のねらい

- ① 望ましい聞き方について理解し、「わたしの聞き方宣言」をつくることができる。
- ② 望ましい聞き方をするためにどのような気持ちが大切か考えることを通して、相手を尊重することの大切さに気づくことができる。

4. 本時の評価の視点

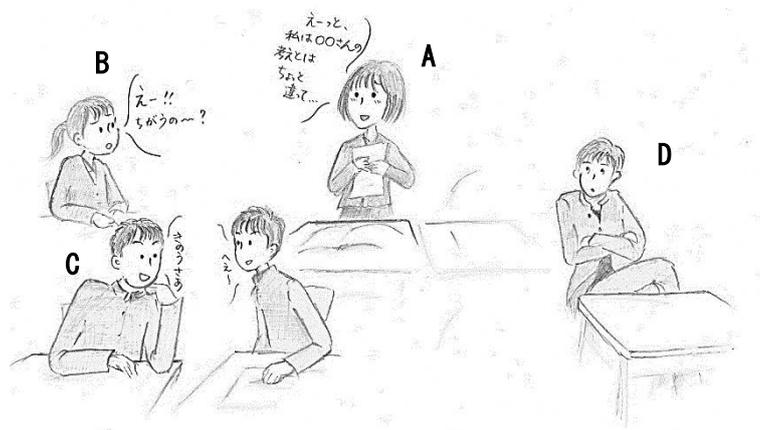
- 知識・技能：支え合う仲間づくりのための望ましい聞き方について理解できたか。【人間関係形成・社会形成能力】
- 思考・判断・表現：支え合う仲間づくりのために自分がすべきことについて考えることができたか。
【キャリアプランニング能力】
- 主体的に学習に取り組む態度：聞き方の大切さを意識し、お互いに尊重する意識が高まったか。
【自己理解・自己管理能力】

5. 本時の展開

	生徒の活動	○評価・指導上の留意点
活動の開始	<p>1 課題の発見・確認（５分）</p> <p>○生徒会執行部から、ビデオを通して課題の発見と提案を行う。</p> <p>○生徒はビデオを視聴し、課題を確認する。</p> <p> 昨年聞き方アンケート結果配布</p> <p> 会長より…「支え合う仲間づくりをしたい」</p> <p> 議長より…昨年度のパネルディスカッションから気づいたこと</p> <p> 会長より…提案理由「『聞く』ことについて話し合うことが、協力、団結して物事に取り組む学級・学校づくりにつながると考えたため」</p>	<p>○アンケート結果を配布する。</p> <p>○パワーポイントを写す。</p> <p> ビデオを電子黒板で流す。</p>
活動の展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>題材：「わたしの聞き方宣言」をつくろう</p> </div> <p>2 イラストを見て考え、意見交換する。（１２分）</p> <p>○B～Cさんの聞き方を見て、その聞き方が「あり」「なし」かを個人でワークシートに記入する。（３分）</p> <p>○班で意見交換する（進行：班長、記録：副班長）（５分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Bさん：なし。途中で自分の意見を言っている。最後まで聞いていない。 ・Cさんたち：なし。私語をしている。 ・Dさん：なし。聞く態度がよくない。 <p> ：あり。Aさんを見ていて、実は話をちゃんと聞いているかもしれないから。</p> <p>○２つ程度の班に意見を発表させる。（２分）</p>	<p>○イラスト、ワークシート配布。電子黒板にイラストを写したままにしておく。</p> <p>○進行と記録係を決めておく。班の話し合い方を指導しておく。（道徳教科書参照）</p> <p>○自分で判断し、理由を考えている。</p> <p>○進行に従って、自分の意見を伝えたり友達の考えを聞いたりしている。【思・判・表】（ワークシート・発表）</p> <p>※Dさんについて、意見が分かれるのがねらい。</p> <p>○自分の考えを記入している。</p> <p>○進行に従って、自分の意見を伝えたり友達の意見を聞いたりしている。【思・判・表】（ワークシート・発表）</p>

<p>(発表用ホワイトボードの利用)</p> <p>3 「望ましい聞き方をするにはどんなこと(気持ち、思い)が大切かを考えよう」(18分)</p> <p>○各自でワークシートに記入する。(5分) ※複数上げてもよい</p> <p>○班で意見交換し、出た意見をホワイトボードに記入する。(10分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きちんとした態度で聞くこと。 ・静かに聞くこと。 ・最後まで聞く。 ・相手のほうを向いて聞く。 ・相手を大切にすること。 ・話す人を思いやる気持ち。 <p>○人権を大切にしたい意見が出た班のものを取り上げて発表し、全体で共有する。(3分)</p> <p>○聞き方は、相手の人権を大切にしているかどうかにつながっていることに気づかせる。</p> <p>4 「わたしの聞き方宣言」をつくる(5分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5で出た大切なことの意味を参考にして、「わたしの聞き方宣言」をつくりワークシートに記入する。 <p>5 振り返り(5分)</p> <p>○「わたしの聞き方宣言」は、後日短冊に書き掲示することを伝える。</p> <p>○教員は活動を振り返り、めあてについて具体的に評価する。</p> <p>○ワークシートの自己評価、感想の記入を記入する。</p> <p>時間があれば、何人か「聞き方宣言」を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導で、出た意見が「なぜ大切か」と、補助発問し、考えを深めることができるようにする。 <p>○望ましい聞き方について理解できたか。【知・技】(ワークシート・話し合い)</p> <p>○支え合う仲間づくりのために、自分がすべきことについて考えることができたか。【思・判・表】(ワークシート)</p> <p>○聞き方の大切さを意識し、お互いに尊重する意識が高まったか。【主】(ワークシート、観察)</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

この活動では、生徒の中に、聞き手の立場になってその気持ちを深く考えたり、話し手の気持ちを大切にしようと考えたりする姿が見られた。出来上がった「わたしの聞き方宣言」はすべての学級に掲示しており、今後定期的に振り返ったり修正したりする予定である。



Ⅲ 成果と課題

1 成果

感染症拡大防止のため、活動の企画や運営のための部会の開催ができず、また活動自体にも多くの工夫が必要であったが、その中で、生徒が主体的に考え、行動する機会や、他者の立場になって考える人権意識を高める取組を実践することができた。感染症拡大防止対策等でこの研究の取組以外の部分でも日程や内容の変更があり、研究の成果を数値で検証することが不可能になったが、特

に取組を積み重ねてきた3年生については、体育祭や合唱コンクールなどの行事、授業、日々の生活など様々な場面において、人権意識の高まりを見ることができた。次は各取組の成果の抜粋である。

(1) 人権集会

変則的な形での開催となったが、学級の課題を話し合う活動と異学年との意見交流により、異なる視点や深まりのある考えに触れ、自他の考えを比較して各自が考えを深めた。各学級から出された課題の根底には人権意識についての課題が共通して存在すること、人権意識を高めていくことが課題の解決につながることに生徒自身が気付く機会となった。

(2) 人権放送

定期的に人権放送の時間を設けたことにより、様々な人権上の課題を生徒に提起できた。自分に置き換えて思いを想像することや自分の行動と照らし合わせて反省につなげるきっかけとして有意義なものとなった。また、生徒自身による進行や朗読は全校生徒の聞く意欲を高め、主体的に聞いて考える姿が多く見られた。

(3) 道徳の授業実践

取り上げる内容項目を生徒が自分事として考えるための発問づくりや、人権教育の視点を明確にした授業づくりの重点について研修することができ、今後の授業に反映できると考える。

(4) 「聞くこと」への焦点化

「聞くこと」への焦点化を図り、生徒一人一人が「わたしの聞き方宣言」を考えたことや学校生活の様々な場面で「人のことを大切にしておくこと」の意識づけを行った結果、生徒が友達の話にじっくりと耳を傾け、話合いを進める姿が見られるようになった。

2 課題

2年間研究を進めるにあたり、教職員の共通認識を図る難しさが課題であった。全教職員が一体となって取り組むためには、分かりやすさが大切であり、それを生徒と共通理解できるものにするのが重要である。今後は、『聞くこと』の取組をふまえ、話す・伝えることに焦点をあてて取組を進める。また、生徒が中心となり、全校生徒に呼びかけて実施した活動が増えたが、生徒会は数多くの企画を抱えている。生徒自らがもつ思いと研究で進めたい方向を重ねていくことで生徒会活動との調整をしていく必要がある。

IV おわりに

本校の研究は、1年目の取組の反省をふまえ、2年目は研究内容をさらに焦点化して取り組んだものとなった。また、新型コロナウイルス感染症拡大のための休校やその対策のため、学校生活において様々な制約が生じる中進めることとなった。その中で工夫しながら進めた活動により、少しずつではあるが、生徒の意識に変容がみられるようになった。今後、多様な考え方に触れることが自らの考えを広げ、深めることにつながっているという実感をよりいっそう高めていくことが大切である。

生徒の現状を見ると課題はあるものの、生徒のもつ「よりよくありたい」、「居心地のよい学校をつくりたい」という思いを大切に、生徒が互いを尊重しつつ豊かな人間関係を育むことができるようにしていきたい。そのために今後も研究を続けていかなければならない。本校の研究はまだ研究途上である。全教職員が一体となり、生徒の豊かな心を育ていける教育活動に取り組んでいきたい。